

共創プラットフォームを市庁舎低層部につくろう！



せんだい・みやぎ NPO センター、都市デザインワークス、パーソナルサポートセンター

市民活動支援から共創プラットフォームへ

～20年の仙台の市民協働の変化～

- ・ 仙台市は**市民協働**によるまちづくりの推進を掲げ、1999年に市民公益活動の促進に関する条例を制定し、全国で初めて公設民営の市民活動サポートセンターを設置しました。この20年で市民活動やNPO活動は定着してきています。一方で、東日本大震災を経て、少子高齢化などにより、地域や社会の課題は多様化・構造の複雑化が進行し、活動支援や団体支援という手法では解決できなくなっています。仙台市も市民の概念を地域や大学、企業など法人も対象として広く捉え、2015年に協働によるまちづくりの推進に関する条例へと改正されましたが、それらを牽引する仕組みはありません。

- ・ 現在の課題認識は次の二点です。

1) 専門縦割りの進行と横のつながりの希薄化

- ・ 課題の多様化・複雑化により、市民・企業・大学・非営利セクター・行政は、個々の課題に対して専門的に対応しなくてはならず、“縦割り”が進行しました。一方で、多様な主体が混ざり合い課題を設定・共有するような場（横のつながりをつくる場）は不足しています。その結果、分野を横断するような複雑な社会課題は、専門外と判断されて“課題”として扱われなかったり、課題だと認識していても協働が生まれにくく、手の届かないままになってしまっています。

2) 社会課題に対して対処療法にとどまり予防医療的な取り組みの欠如

- ・ 地域や社会の状況が複雑に変化し続けている以上、社会課題が顕在化したあとに対応策を検討するという対症療法的な施策だけでは不十分です。潜在的課題を発見し、予防医療的な施策を研究・開発し、予見される社会的コストをできるだけ未然に削減することが重要です。これは大きな組織であっても、単独では困難です。枠組みを超えて多様な主体が混ざり合い、課題の発見から解決策の試行までを行う場が求められています。

- ・ 私たち3社はこの5年間どのような機能や人材、場が必要なのかを調査し、実践を通じた研究を行ってきた結果、目指すべき「共創プラットフォーム」の輪郭を取りまとめました。引き続き実践を通じて必要なリソースを集め、ネットワークの強化を図り、仙台に不可欠な場をつくりたいと考えています。

これからの仙台を拓く **共創プラットフォーム** づくり

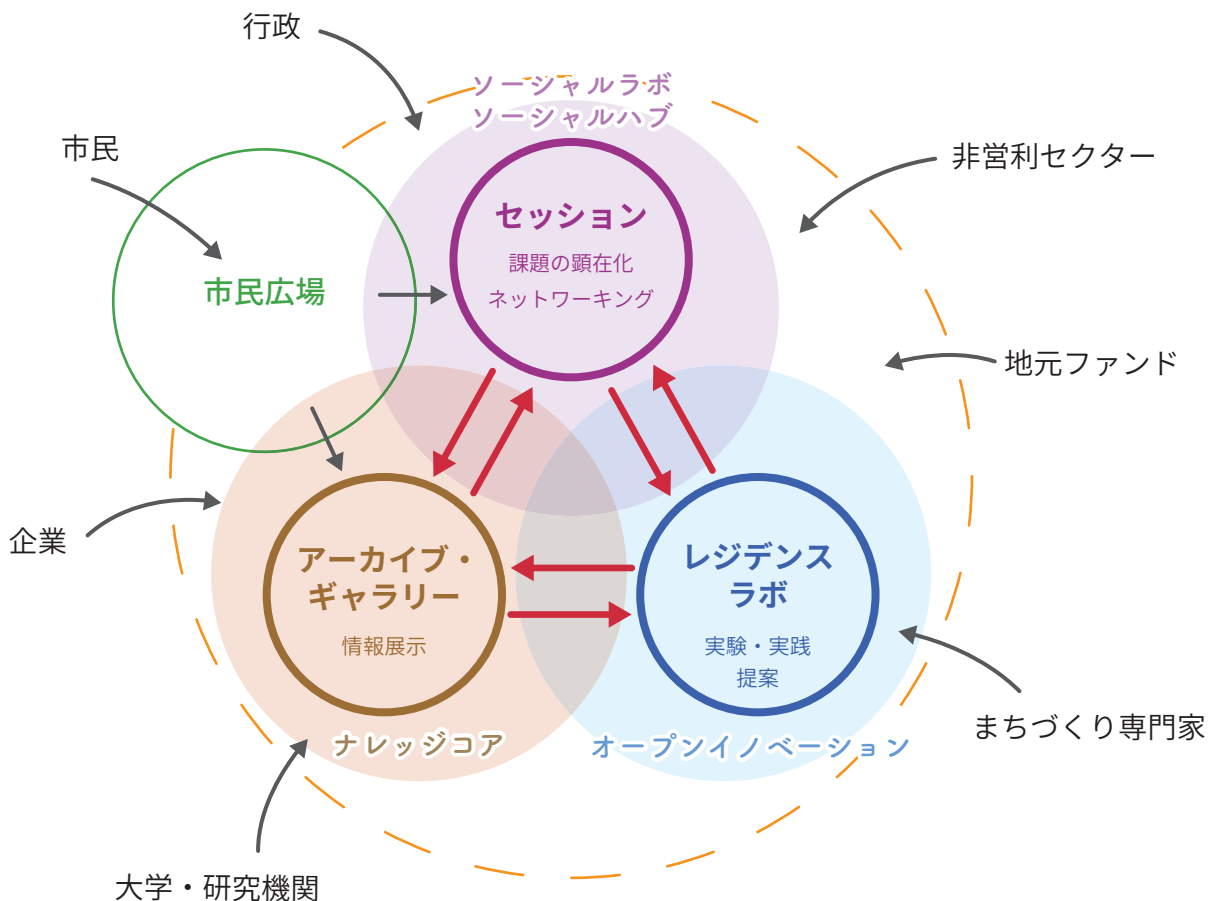
市民・企業・大学・非営利セクター・行政が協働し、課題解決策を共創する時代へ——
所属組織や立場の異なる多様な主体が枠組みを超えて創造性を発揮し、
仙台のこれからの「ともに考え、ともに作る」場が「共創プラットフォーム」です。

共創プラットフォームが担う 4 つの役割

- A **ソーシャルラボ**：仙台における潜在的課題を顕在化する
- B **ソーシャルハブ**：各分野を牽引する人材が集まり、強靱なネットワークをつくる
- C **オープンイノベーション**：今までの枠組みを超えて、課題の解決策を見出し、取り組む
- D **ナレッジコア**：集合知として統合し、活用する

共創プラットフォームを駆動する 3 つのプログラム

- ★**セッション**（せんだいフューチャーセッション・テーマセッション）
- ★**レジデンスラボ**
- ★**アーカイブ・ギャラリー**



★せんだいフューチャーセッション

仙台のこれからについて、個々人が課題を提起し、それに対して参加者でアイデアを出す場です。

それぞれの視点や問題意識を尊重しながら議論を交わし、潜在的課題を顕在化したり、地域課題・社会課題の論点を練ったりします。



★テーマセッション

せんだいフューチャーセッションから派生した、テーマ型のセッションです。先進的な活動をするゲストや、テーマに関わりが深い関係者が集まり、より具体的な議論を交わします。アイデアを集めて仮説を組み立てることや、実践に向けて人材を繋ぐことを目的とします。

参考：フィンランドやデンマークなどヨーロッパで広がるフューチャーセンター



★レジデンスラボ

セッションから派生した実践プログラムです。数ヶ月間集中的に調査や研究を行い、仮説に基づく実証実験を行い、課題の解決策を提案します。芸術家の滞在型創作活動（アーティスト・イン・レジデンス）のように、拠点となるスペースを設けて一箇所に集まって実施します。

参考：神戸市 KIITO の市民参加型ゼミ（+ クリエイティブゼミ）。社会的課題をより広い市民で共有し、課題解決の方策を考える。実現性が高く効果が期待できるプランは、関係機関と協議しながら事業化に繋げる



★アーカイブ・ギャラリー

より良い情報に触れることは学びや実践の質を高めるために不可欠です。アーカイブには、セッションやラボで取り組まれているテーマやアイデア、市民活動の記録が蓄積されていきます。テーマに関連する書籍や資料、データ、市の政策や計画書などが揃うライブラリーの機能も果たします。

ギャラリーでは、セッションやラボの進捗状況、市民活動、市政情報を展示します。仙台の現状とこれからについて多面的に発信し、市政やまちづくりへの参加を促進します。来訪者のこえも集め、双方向で情報のやりとりが生まれる場とします。

参考：まちづくりへの参加を促す展示を行うシンガポールのシティギャラリー



共創プラットフォームが仙台市庁舎の低層部につくられる意義

◆ 市民広場を訪れる市民にまちの情報を届け、まちを良くしたいという意欲を醸成する

市役所の目の前には、仙台の賑わい創出の拠点となっている市民広場があります。共創プラットフォームが市民広場とつながると、自分の住むまちにどんな課題があり、どんな議論がされているのか、情報に触れ易くなります。市民がもっと自分ごととして仙台のまちづくりを考え、自らまちを良くしたいという挑戦意欲を醸成することが期待されます。

◆ 市職員の声を聞き、市役所が抱える課題に対して提案が生まれる場になる

「市ではこんな悩みを抱えています…」とディレクターに相談してください。それを元にセッションを組み立て、企業や非営利セクター、研究機関なども交えて解決に向けて議論します。新たな施策のアイデアが生まれることもあれば、ビジネスとして民間で課題解決に動き出すかもしれません。

特に、都市が縮小していく時代なので、何かを“つくる”だけでなく、“変える”または“やめる”選択も必要です。これは、市だけでは判断が難しいのではないのでしょうか。皆でまちの課題に向き合い、議論する場があれば、都市が縮小する時代に起こる様々な課題に協働で立ち向えると考えます。

◆ 民間活用によるアクセス増により、より良い行政施策やサービスを生み出す

市役所の立地は繁華街にも近く多くの市民が行き交うエリアです。低層部の民間活用により、多様な市民が気軽にアクセスする場となることで、課題解決に向けたアイデアの実践や実証実験の反応を得やすくなります。例えば、行政だけでは行き渡らない夜間の子どもや困窮者の支援を、市民や民間の力で補完する実践と検証を行い、可能なものから行政施策や民間サービスとしていくような課題解決のリーンスタートアップが可能になります。



プログラムの運営人材

日常的に、企画立案や運営管理を行う**ディレクター**、セッションやラボをまわす**ファシリテーター**、展示や課題の可視化を行う**デザイナー**のスキルを持ったコアチームが常勤スタッフとして必要です。また、コアチームとともに、非常勤で各分野のリーダー人材がメンターチームとして幅広いプログラムを支えます。

このような多様なステイクホルダーが関わるプラットフォームの運営形態は自由度の高い柔軟な仕組みが必要であり、今後の検討課題です。

参考：柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）の行政、大学、企業による持ち寄り型の運営形態

求められる空間像

空間デザインは、人を従来の感覚から解き放つための遊びの要素や、身体的・精神的にリラックスするために寝転がれるソファや芝生などを取り入れた、個性的で多様な空間が求められるとともに、様々なテーマに応じてレイアウトを柔軟に構成できるエリアも必要です。

プログラム運営には

- ・ホール ・ラボスペース ・アーカイブ ・ギャラリー
- ・ワークスペース ・コミュニティキッチン

などが必要となります。



共創プラットフォームづくりのこれまでとこれから

私たちは、市内の複数の場所を利用してセッションを開催し、共創プラットフォームの具体化を進めています。フードロス、都市のスポンジ化など、様々なテーマで開催してきました。

試行してみると、多様な視点、専門知識、能力、挑戦する意思が一つの場に入り混じり、イメージよりもずっと“カオス”や“野蛮”という言葉が似合う場になっています。予期せぬ分野での繋がりや、新たな発想など、化学反応が起きていることを実感します。今後もセッションを行いながら、課題の顕在化と解決に向けた実践・検証に取り組んでいきます。

一方で、集中的に調査や実験を行うレジデンスラボや、取り組みを蓄積・発信するアーカイブ・ギャラリーがないため、課題へのアイデア出しで終わってしまう危険性も秘めています。セッションでの議論を、具体的な実践と検証までつなげるためにも、共創プラットフォームにふさわしい空間を必要としています。



マチノワ・ラボ (2017)



チビラボ (2017)

- 作成 -

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
特定非営利活動法人 都市デザインワークス
一般社団法人 パーソナルサポートセンター

- 連絡先 -

TEL 022-212-3010
(仙台市市民活動サポートセンター 担当：太田・鈴木)

2019年12月